（第3種郵便物認可）　大分合同新聞（朝刊）　2012年（平成24年）10月19日　金曜日

日出町（ひじまち） 総括会議 ハピ ミライデザイン会議 カム

大分合同新聞社が、次代を担う若手リーダーと一緒に地域の未来を考えるミライデザイン会議「ハピカム」日出町編が9月29日、同町の日出中央公民館などで行われた。「農水産業」「観光」「地域産業」の3分科会の議論を経て開かれた総括会議では、分科会で出された地域の課題をさらに深く話し合った。県内でも数少ない人口増加の自治体である日出町。出席した若手リーダーたちは一様にこの町は暮らしやすい町だと感じている。ただ、大分、別府両市へのアクセスの良さからベッドタウン化が進んでいるのが現状。3分科会全てで連携不足という課題がテーマとなった。総括会議ではこの課題を解決し、日出町の埋もれている宝をいかに町外にアピールするかがメーンテーマとなった。議論の中で、子ども連れの母親が気軽に集える場となる公園の必要性や、女性の目線を生かした町づくりをする新たな“日出モデル”が提案された。出席者は地域活性化のため組織の枠を越えたネットワークの必要性で一致、この日の出会いを今後につなげることを誓い合った。

■ウェブ　http://www.oita-press.co.jp
■スマートフォン　http://www.oita-press.co.jp/h-come/

主催／大分合同新聞社　共催／日出町　日出町商工会
協賛／国立大学法人大分大学　（株）大分銀行　二階堂酒造　（株）NTTドコモ九州大分支店　日本たばこ産業（株）熊本支店

ただのベッドタウンを脱却

「農水産業」分科会まとめ

日出町全体としての農水産品ではなく、今回は分科会メンバーが頑張って生産しているものをいかに広く知ってもらうかという話を進めた。ハモ部会長をしている中山さんは今年4月にハモのPRのための部会を結成、夏にはハモ祭りを開催した。有機野菜農家の青井さん、鶏卵生産の杉田さんにも共通した特徴で、こだわりを持って生産している。課題として町内でもハモを食べることがない人がいるとか、それぞれの商品が町内で知られていないことが挙がった。現状を変えるため、それぞれの食材のPRのための必要性とを話した。例えば学校の食育の場で伝えていこと、料理人の協力でレシピ作りをしていく、生産現場に子どもたちを連れてきて様子を見せることが重要なのでは、と提案された。また、日出町は周辺に大分、別府市という大消費地があり、町内にもたくさんの人が住んでいる。いかに地域と協力して産品を知ってもらうかを大切、以上のことを進めていくためのもう一つの課題が見つかった。青年部などそれぞれの団体で活動してきたが、団体の人数が減り活動が十分できていない。生産に関わっている人、消費に関わっている人、飲食店に関わる人が集まり、日出町の食の組織・団体をつくりながらのアピールが重要。またその活動を支援していくため、応援団的な組織ができることも大切なのではと提案された。

はなど想像が膨らみます。海教した加賀山半左衛門翁子の話もお芝居にできるな、書いてみたいと思います。かわいいウサギの親給（こてえ）も見つけました。言い尽くせないほどの魅力があります。

駅起点にウオーキング

安東　意外と地元の人が地元の魅力に気付かない部分があります。観光の入り込み数は80万人。おそらくベーキングランドと別府湾ロイヤルホテルの宿泊がほとんど。せっかく整備された暖谷城跡をはじめ、魅力がまだ知られていないと思いますが、町役場で観光振興をしている観光分科会の清田雄太さん（商工観光課）にお聞きたいと思います。

清田　入り込み客については年々増えています。ただ内訳では宿泊客の伸び悩みがあり、長期の宿泊を伸ばすのがあるかもしれない。何かもっと長く滞在してもらえるような観光PRの仕方など必要になってくると考えています。

安東　プロの視点もお聞きしたいので、アドバイザーの六本さんにお聞きします。これだけ国道を通行する車が多い中、中心部に呼び込むアイデアはないでしょうか。

六本木　宿泊者を増やすためにはまず宿泊施設を増やす必要があります。以前と比べ宿泊施設の増減はどうなのかというところがあります。宿泊者は単価が大きいので町の活性化に重要ですが、日帰りの人を増やすのも一つの手です。日帰りの人を増やす方が比較的呼び込みやすいです。日帰り客が午前中に来ると、当然昼食を町内で食べますので活性化につながります。JR駅を起点にした無料のガイドやウオーキングツアーなどを企画し、周辺地域から誘客すれば活性化ができるのではと思います。

観光／アドバイザー
Takeshi Roppongi
六本木武史 さん
福岡県出身、41歳。観急交通社大分支店営業課課長。1993年の入社以来、国内外のツアーの企画や営業に携わる。2010年から大分勤務。

生産者が魅力を伝える

安東　消費拡大の点では青井さんがサラダホウチャを商品化していますが、連携を含めた取り組みを紹介していただけますか。

青井　それぞれこだわって作っていますが、知る人が限られた状況になっています。やはり自分たちは生産者ですので、分科会では良はある程度プロに任せたらという話になった。ただ担い手不足の問題もあるので、農業者なら農業者だけでなくて集まるのではなく志を持った人が組織を越えて集まれる場ができればいいのではと提案されました。

農水産業／若手リーダー
Tomoaki Aoi
青井朝輝 さん
有機JAS野菜農家。30歳。農業者大学校を卒業し2005年に就農。農業関連の複数の組織に加入し、12年から県農業青年連絡協議会副会長。

埋もれている力を活用

安東　地域産業分科会は女性が多く女子会の乗りで盛り上がったと聞いています。女性の目線で考えたときに人材を生かして何か起こすことは可能でしょうか。

甲元　分科会ではKトラ市の話が出ました。宮崎県の観トラ市を参考にしてスタートしたけれど、少しずつ出品者や来場者が減っています。どうしたらいいかという話の中で、子育て中のママが出られる周便時間にずらした方が良いのではと提案されました。商工会青年部、JA、漁協の3団体の連携があまり取れていないということなので、組織の枠を外して日出町が好きという人が集まれば良いと思います。

安東　アドバイザーの河野さんに“日出モデル”の話をしてもらいたいと思います。ベッドタウンで発展している日出は専業主婦の力をどう生かすかという課題もあると思いますが。

地域産業／アドバイザー
Yuko Kawano
河野祐子 さん
大分市出身、38歳。大銀経済経営研究所主任研究員。人口減少・少子高齢化に伴う地域の課題や取り組み、ワークライフバランスに関心を持っている。

回天神社を平和教育に

林　最近お子さん連れの若いお母さんがたくさん足を運んでくれます。そういう方が利用していただけるのはうれしくて大歓迎です。できるだけ積極的に場所を提供したいんですが、子どもが騒いだりした場合どうするかなど、ゆっくりに来ている他のお客さんとのすみ分けが必要です。若いお母さん向けのリトミックの教室なども行っています。時々子ども連れで参加できるのか問い合わせがありますが、子どもの面倒を見る人などは、うち単体では用意できないので、何かいいアイデアがあればと思います。

安東　どの分科会でも横の連携の大切さが出ましたが、日出町の住みやすさは豊もが認める価値。駅も町に同じ、高速道路のインターチェンジもあり実害も少ない。その中で、町の風景が短期間に大きく変わったという話を聞きました。町に歴史があるんだけど、伝統行事や伝統料理が継承されていなかったりの部分は残念に思います。農地を見ても混在化が進んだり、商用地への転用が進んだりして圃場（ほじょう）面積が減ってきています。町も危機感を持っているようでワーニングをしっかりやっていこうとしているようですが、まだ町の中に用ばで足るものが残っています。ザビエルの道の物語や何天神社は伝えていってほしいと思いますが、岩豪さんいかがですか。

「観光」分科会まとめ

日出町の観光を語る上で最初に出たのが観光のコンセプトがないということ。そこが一番大きな問題ではないか。さらに、それぞれの観光地を無理に結び付ける必要はないが、連携すべき点、連携できる点がもっとあるのではないか。国道10号を挟んで海側と山側で交流が進まない現状がある。また、農岡、鵜谷、大神の各地域の連携がとれていないのではないだろうかという意見が出た。税収が減って、交付金が減っていく中で役場ができることには限界がある。これからは住民がもっと進んでまちづくり、観光振興に参加すべきではないかと提案された。以上の課題を解決していくためにどうすべきかという点では、周遊バスであったり乗り合いタクシーなどを活用して駅と観光地、観光地と観光地を結ぶ人の流れを生み出すことができるかもしれない。魅力的なものは日出町にたくさんあるが、それらがほこりをかぶったままになっている。磨きをかければもっと人を呼べるものがあるのではないだろうかとの声も。また、連携を深めてもっと日出の色を出していくために、祭りなどを通じて地域の交流を深めていく必要がある。住んでいる住民が幸せなら人も自然と集ったりになるのではないか。食の魅力を高めるためハモなどを活用することも選択肢ではとの提案もなされた。

「地域産業」分科会まとめ

地域産業を見つめ直す前に地域の良さを出し合った。出てきたのは、非常に暮らしやすいということ。ただ、現状の暮らしやすさが20年後も続くだろうか。現在増加している人口も減っていくだろう。その時、どう地域を元気付けていくのかを考えていくと、今の暮らしやすさを追求する中で何が産業の仕掛けができないか議論した。子育てをしやすい環境づくりをすることで人口の現状維持につながり産業の活性化、地域の元気につながるのではと意見が出た。しかし、課題は何をやるにしても横の連携がないこと。地域産業を興すにしても連携が強ければ可能性が広がるとの指摘があった。連携を見つめ直すため議題となったのが、商工会青年部によるKトラ市。3年目を迎えたが、やはり横の連携不足で広がりが乏しい。どう盛り上げるかでは、分科会メンバー6人中4人が女性だったということもあり、女性目線でのアドバイスが出た。例えば女性が出品しやすい時間に開催するとか、代理出品できないかなど。また、1人で企画・製造・販売をするには限界があるので、お母さんグループのネットワークを使って商品のアイデアを出してもらったりできないか。住民同士いろんな連携を強めて、女性的な空気が町全体に生まれた“日出モデル”を構築すれば、新たな産業が見い出せるのではないかとのアドバイスがなされた。

女子力生かして“日出モデル”

岩豪　かなり以前のテレビで人間魚雷の話を見ましたが戦争ではこんなことまで考えたんだ、残酷だなと感じました。今回その神社が日出町にあることを知りました。これはやはり子どもたちに平和教育として伝えていかないと。宇佐は平和教育を熱心にしていますが、日出町も残して教育に役立ててほしいと思います。

安東　地域の結び付きを考えたとき、こういうものを守ったり伝えていったりすることも大事だと思いますが、宮本さんは婦谷会の活動でどの辺が課題と考えていますか。

宮本　活動を通じての悩みはやはり、たまに意見が割れることと、中間層の年代が少なくなっていて年配の人との ギャップがどうしてもあります。行事を通じて昔のものを守ることと若者の感性がぶつかることも。意見を全く聞かないと意見が通れて発展がなくなります。婦谷会の中でも中間に立つ私たちの年代が、つながりをつくって若手の意見を上の世代に上げる仕組みを少しずつ進めています。若手だけで行事を催そうか、という計画もあります。伝統を守りながら継続させ、また時代に変わるのでニーズに合わせたやり方を考えていけばいいと思います。

観光／若手リーダー
Yoshimitsu Miyamoto
宮本祥光 さん
杵築市出身、36歳。大栄ビル管理天分事業所長。ゲッカーやフットサル、ゴルフ、釣り、スポーツ観戦、旅行などスポーツやアウトドアが大好き。

つながることの大切さ

安東　青井さんは学生時代に全国の農家の人と触れ合ってつながりの大切さを感じたということですが、そのお話を聞かせてください。

青井　農業を目指す人しか入らない大学で学び、学生は全国から集まって全寮制でした。1学年が30人くらい。雪国の農業青年が冬場何をしているかと聞くと、父親が除雪作業をして、自分はスキー場のリフトでアルバイトなど、そこでないと聞けない話を聞くことができました。外に出ていろんな人と話すことは面白いと分かりました。全国に仲間がいて、たまいのない話でもつながっていくことの大切さを学びました。

安東　日出町は町外から来て住んでいる住民が約6割と聞いていますが、つながりという部分で、自身も杵築市出身の甲元さんはどういうものを目指して活動していますか。

地域産業／若手リーダー
甲元真梨 さん
杵築市出身、29歳。パワーウェーブ日出営業、天の実家は大分合同新聞日出プレスセンター。誰もが気軽に集まれるカフェをオープンしたい。

甲元　人のつながりという部分では、パワーウェーブ以外でさせて頂いてる仕事で、いろんな人とお会いする機会が高いです。その中でいろんな経験をして知識を持っている人が多いです。先ほど年配の方と若い方の意見のすり合わせの話が出ましたが、まずは若い人に任せてもらえる環境をつくって、何か困ったとき経験の深い人がサポートして頂ける関係を目指しています。

カテゴリー外し集まる

安東　最後に日出町を良くしていくために、これから始められそうなことを挙げてください。

青井　分科会でも最後に出た、カテゴリーを外したつながりを求めています。私たちは農業後継者の組織なんですが、時代の流れとともに企業に雇用されて農業従事者と連携する必要がでてきています。ただ、いきなり自分たちの組織に入ってください と言ってもなかなか難しい。一度みんながカテゴリーを外した組織に集まって、ここ例えばトップ同士だけでもつながっていてとか、組織に入るのは「あんたも入りよ」みたいに、人から勧められて誘われて多い。自分が杉田さんと仲良くなって、杉田さんを通してつながって入ってもらうような形がとれたらと思います。今後カテゴリーを外した組織ができて、そこに若手が集まってというところから、それぞれが抱える担い手不足などの問題解決に向けて第一歩が始まるのかなと思いました。

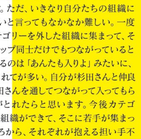
宮本　婦谷会のメンバーは非常にお酒を飲む人が多くて、集まることは多いのですが、いつもメンバーが同じで、どうしても井の中の蛙（かわず）になってしまいます。新しいことをしようとしてもなかなか踏み出せないことが問題です。今日の会でいろんな人の話を聞いて婦谷会としても何か独自なものを見つけたいと感じました。役場の力をお借りすると思いますが、入口で個人個人で要望していたものを、まとまって要望し、それを発端に町内に少しずつ広げていく形にできればと思います。私も考え方を変えて発言を増やし、年配の人に訴えていきたいと思いました。

安東　最後に岩豪さんにまとめをお願いします。

岩豪　課題としては素晴らしいものがたくさんあるのに生かし切れていないということだと思います。それを逆手に取って素晴らしいものを生み出していってほしいと思います。それと、何度も出ましたが横のつながりということが必要で、こんにちかんをきっかけにどんどんつながっていってもらいたいです。女子力の無限の可能性にも期待を持っています。これから役場と新聞社さんを巻き込んで日出ブランド、大神ブランドを立ち上げていってほしいと願っています。

一歩踏み出す確約、成果

安東　今日は最後に搾りきれ一歩踏み出す確約をしてくれたので、それが最大の成果かなと思います。それぞれが地域の資源を再確認することができるのではと思いました。今回いろんな地域に出掛けましたが、もったいないなという印象があります。やはり地域の人がまず自分たちの地域の魅力に気付いて、磨きをかけるような地域づくりの活動を始めたらいいのではと思います。それと役場の幹部の方もすごく危機感を持っていることが分かりました。いずれは誰もが老後を迎えます。その時間災の面なども、1人でやっていけるのかという問題があります。地域の結び付きや人の和がなければ結局は自分たちに返ってきます。これまでのベッドタウンの町を“脱ベッドタウン”を目指して、何か1日町に住んで良かったと思えるようなものがそれぞれの地域で起こっていくようなことを感じました。今回三つの分科会とも繋がりがないという報告がありました。そこをこれからの課題と受け止めて、これからの町づくりに役立ててほしい思います。



総合コーディネーター
Kimitsuna Ando
安東公綱
1992年大分合同新聞入社。社会部、別府支社、日田支社、経済部を経て報道部長。45歳。海と つながった日田しっぷぐ の町。ザビエルの道を歩いてみたい。

大切なご家族を守る。情報を守る。そして、暮らしを便利にする。
進化した「新ホームセキュリティ」、誕生。
セコムのホームセキュリティが進化しました。どなたにも使いやすい、タッチパネル式の10.4型カラー液晶モニターを採用。防犯・火災監視・非常通報などのセキュリティサービスに加え、大切な情報を守る新しいサービスをスタート。暮らしに役立つ機能も追加しました。毎日を、もっと「安心」に。そして「便利」に。これが、ホームセキュリティの新しいかたちです。
ほんとうの「安心」は、ここにあります。
SECOM セコム・ホームセキュリティ G-カスタム NEW!
サービスについて詳しくは、ホームページまたはフリーダイヤルで。 G-カスタム 検索 0120-025756（24時間・年中無休） セコム株式会社

大分を学ぶ

日出町編　回天神社

人間兵器が生んだ悲劇　語り継ぐべき戦争遺産

私たちは大分大学の経済学部、工学部で学ぶ学生です。地元の大学生として大分のことをもっと知りたいと思い、今回は日出町大神の回天神社を訪れました。

大神は太平洋戦争末期の1944年4月25日に、山口県の光、平生に続いて「回天」の基地が開設された場所。回天は人が乗り込んで操縦し、敵艦に体当たりできるように改造された“人間魚雷”の名前です。

神社前には回天の3分の1の大きさの模型が設置されています。大神回天基地顕彰会の松本智会長が「回天や戦時中の基地の様子について話してくれました。

大神基地では273人の大神突撃隊が訓練に励んでいました。秘密兵器の訓練基地として、周辺住民にも訓練の様子などは一切秘密にしていたそうです。基地からは8月3日とともに宿毛湾に向けて出航。12日に出撃命令を受けたものの15日に終戦を迎え、出撃はありませんでした。

決死の覚悟で訓練をしていた、私たちと同年代の若者の中には、戦争が終わっても気持ちの整理がつかずに自殺してしまった人もいました。人間を兵器として使うという考え方が否定されなかった、戦時下の日本を憎っていた切羽詰まった当時の若者の強い思いに心を揺さぶられました。

神社の中には、他の基地から回天で出撃し、戦死した10、20代の搭乗員の遺書の内容も掲げられています。国のため、家族のために犠牲となった彼らの命の上に今の平和が築かれています。今回の訪問で広島・呉・崎と いった被爆地だけでなく、大分にも忘れてはならない戦争遺産があることを知りました。

[参加者]
4年
長谷川陽香
堀越雅子
3年
堤僚平
土井将史

国立大学法人 大分大学
OITA UNIVERSITY
www.oita-u.ac.jp
□旦野原キャンパス　〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
□挾間キャンパス　〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
□王子キャンパス　〒870-0819 大分市王子新町1番1号